

挨拶

理事長退任にあたって

前理事長

石川 哲*



早いもので臨床環境医学会が発足してから12年が経ちました。

この度私はここで勇退し現理事長である宮田幹夫北里大学名誉教授にすべて交代することとなりました。

思えば、本学会は最初は北里大学医学部、旭川医科大学医学部が基幹大学となり、旭川市の援助を受けつつ、臨床と関係する「環境問題」から発したと考えられ、未だ認定が行われていない難しい疾患を研究の対象として発足いたしました。学問は特に医学関係では閉鎖的、場合によっては排他的に行われる面が過去にありました。それを一掃し、出来るだけ若手そして、医学部以外の各学部の会員に参加を頂き、「広く学際的に研究を発展させる」という初期の考えをもって1992年第1回の学会が発足いたしました。

1993年には同じく旭川市にて、International Congress of Clinical Ecologyが、9月4-5日に開催されて大きな成果を上げる事ができました。その後本会は着実に発展を遂げて現在では、300人前後の会員数を数えますが、何より大切な臨床環境医学が日本でも着実に育ったという現状を見ると感無量です。

シックハウス症候群問題に関して、厚生労働省の研究費援助があったことも、極めて大きく、学問の発展に寄与しました。その1つの表れとして、2003年1月には米国NIHの環境部門との国際会議も日本で開催されましたし、2003年7月にはホルムアルデヒド、クロルピリフォス、トルエン、パラジクロロベンゼンなど13物質につき指針値設定、建築基準法改正が行われました。本学会の研究も微力ながら、これらに寄与することが出来たと思っています。

1992年に発刊された第一巻一号をみますと、臨床環境医学の発展の萌芽的テーマが並んでいます。順番に書くと「化学物質過敏症、眼と環境、神経疾患と環境、食品と健康」などです。現在でも全く同様の研究が進歩を重ねながら、世界中で発展しています。シックハウス症候群問題は、欧米のみでなく、韓国、中国、東南アジア各国でも化学物質過敏症問題とともに国民の大きな関心事となっております。

今後この学会は、若手と切り替わりながらさらに発展することを信じて疑いません。これも一重に学会を支えて下さる会員の皆様のお蔭と思っています。

最後にいつも種々なる困難に直面した時、私に援助の手をさしのべて下さった新理事長の宮田幹夫先生、新編集長の坂部貢先生に心から御礼申し上げます。学会の、益々の御発展をお祈りします。

2004年4月

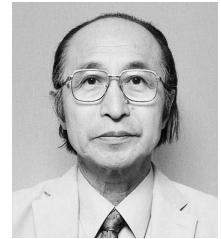
*北里研究所病院臨床環境医学センター長

挨拶

新理事長に就任して

理事長

宮田 幹 夫*



石川哲理事長の後任として、平成15年度臨床環境医学会総会で理事長の承認をいただきました。私はこれまで本学会事務局長を務めてまいりましたが、平成4年4月4日に日本臨床環境医学会が成立される時から、学会を立ち上げることが、またその維持、育成がいかに大変であるかをつぶさに教えて頂いてまいりました。前理事長の石川哲先生、前副理事長の安孫子保先生、田邊等先生、また保坂明郎をはじめとする名誉会員の先生、理事の先生や会員のご努力で、当学会は一般的な分科的学会とはまったく趣の異なる独特の地歩を確立して参りました。

現代社会は、化学的環境、物理的環境、生物的環境、どれを取りましても、これまでの生物の発達史とまったく異なる環境の次元へ突入しています。本学会の設立趣意書に記載されているように、《健康を維持・増進するために環境とどのように「共生」するのか》を科学的に描いていくという本学会の社会的責務は、現在ますます重くなってきていると考えられます。衣・食・住・空気・水・健康の専門家を交えながら、この課題を追求していく必要があります。また、環境問題ほど若い力を必要としている分野はないと思います。若い各界の専門家の協力を掘り起こす必要もあります。

他方、環境問題ほど地道な努力が必要な分野はないと思います。幸い本学会の構成から、学会運営は先輩諸先生からのご助言を頂けることになっております。私は先任の先生方が築いてこられました臨床環境医学会設立の趣意を心に刻みなおして、臨床環境医学の発展に地道な努力を尽くして行きたいと思っております。

今後とも、日本臨床環境医学会発展のために、学会員の方々の変わらぬご支援を、お願い申し上げます。

2003年7月

略 歴

氏 名；宮田幹夫	昭和63年	北里大学医学部臨床研究教授	
生年月日；昭和11年3月17日	平成11年	北里研究所病院臨床環境医学センター 部長	
昭和35年	名古屋市立大学医学部卒業		
昭和40年	名古屋市立大学医学部医学研究科修了	平成13年	北里大学名誉教授
昭和42年	名古屋市立大学医学部講師	平成13年	北里研究所病院客員部長
昭和44年	UCLA ジュールスタイン眼研究所研究員		
昭和45年	名古屋市立大学医学部講師		
昭和47年	北里大学医学部講師		
昭和49年	北里大学医学部助教授		

*北里研究所病院客員部長